

## 製品安全データシート(SDS)

### 1. 製品及び会社情報

製品名：オリブ油 Olive Oil  
 会社名：丸石製薬株式会社  
 住所：〒538-0042 大阪市鶴見区今津中2丁目4番2号  
 担当部門：学術情報部  
 電話番号：0120-014-561  
 緊急時の電話番号：06-6964-3108  
 F A X 番号：06-6965-0900  
 緊急連絡先：上記担当部門  
 ホームページアドレス：  
<http://www.maruishi-pharm.co.jp/>

推奨用途及び使用上の制限：軟膏剤、硬軟剤、リニメント剤などの基材  
 皮膚・粘膜の保護剤  
 所定の用途以外には使用しないこと

整理番号：

### 2. 危険有害性の要約

GHS分類：

GHS（世界調和システム）による危険物質または混合物ではない			
物理化学的危険性：	爆発物	分類できない	
	可燃性ガス	分類できない	
	エアゾール	分類できない	
	酸化性ガス	分類できない	
	高压ガス	分類できない	
	引火性液体	区分4	
	可燃性固体	分類できない	
	自己反応性化学品	分類できない	
	自然発火性液体	分類できない	データ無し
	自然発火性固体	分類できない	
	自己発熱性化学品	分類できない	データ無し
	水反応可燃性化学品	分類できない	データ無し
	酸化性液体	分類できない	データ無し
	酸化性固体	分類できない	
	有機過氧化物	分類できない	
	金属腐食性物質	分類できない	
	鈍性化爆発物	分類できない	
健康に対する有害性：	急性毒性（経口）	分類できない	
	急性毒性（経皮）	分類できない	
	急性毒性（吸入：気体）	分類できない	
	急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない	
	急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	分類できない	
	皮膚腐食性／刺激性	分類できない	
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	分類できない	
	呼吸器感作性	分類できない	
	皮膚感作性	分類できない	
	生殖細胞変異原性	分類できない	
	発がん性	分類できない	
	生殖毒性	分類できない	
	生殖毒性・授乳影響	分類できない	
	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	分類できない	
	特定標的臓器毒性（反復ばく露）	分類できない	

環境に対する有害性：	誤えん有害性 水生環境有害性 短期（急性） 水生環境有害性 長期（慢性） オゾン層への有害性	分類できない 分類できない 分類できない 分類できない	データ無し データ無し データ無し
GHSラベル要素：			
危険有害性情報：	絵表示 注意喚起語 可燃性液体 指定可燃物 眼刺激 皮膚刺激	該当なし 該当なし データ無し 軽微	
安全対策：	使用前に取扱説明書を入手すること。 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。 容器を密閉しておくこと。 取扱い後は手をよく洗うこと。 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 換気の良い場所で使用すること。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。 環境への放出を避けること。 保護手袋／保護衣／保護眼鏡を着用すること。 吸入した場合：新鮮な空気のある場所へ移すこと。 皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水【又はシャワー】、石鹸で洗うこと。 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 飲み込んだ場合：口をすすぐ。意識がない場合、何も与えないこと。 気分が悪いときは医師／看護師に連絡すること。 気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。 眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。 火災の場合：消火するために消火剤を使用すること。 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。 施錠して保管すること。		
応急措置：			
保管：			
廃棄：	内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。		
国連番号：	該当無し		
指針番号：	該当無し		

3. 組成及び成分情報

化学名又は一般名： オリブ油 (Olive Oil)  
組成、成分情報：

成分	化学式	分子量	1mL中の含有量	CAS番号	官報公示整理番号 (安衛法)	官報公示整理番号 (化審法)	GHS登録有無
オリブ油 (Olive Oil)	-	-	1mL	8001-25-0	11-(4)-69	非該当	無

## 4. 応急措置

## 応急措置

- 吸入した場合： 被害者を空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- 皮膚に付着した場合： 多量の水／石鹼で洗うこと。  
直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。
- 眼に入った場合： 水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
眼科医/医師の処置を受ける。
- 飲み込んだ場合： 水でよく口の中を洗浄した後、コップ数杯の清水を飲ませ希釈し、可能であれば指をのどに差し込んで吐き出させ、医師の処置を受ける、但し意識がない場合は口から何も与えてはならない。
- 急性症状及び揮発性症状の最も重要な徴候症状： 皮膚を軽微に刺激する。眼を刺激する恐れがある。
- 応急措置をする者の保護： 救助者は、ゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。
- 医師に対する特別な注意事項： 症状に対応した治療法を行う。

## 5. 火災時の措置

- 適切な消火剤： 二酸化炭素消火剤、粉末消火剤、泡消火剤、乾燥砂
- 使ってはならない消火剤： 火災が周辺に広がるおそれがあるため、高圧水流の使用を避ける。
- 火災時の特有の危険有害性： 二酸化炭素、一酸化炭素はじめ刺激性、毒性、黒煙が発生する可能性がある。
- 特有の消火方法： 火元への燃焼源を断ち、消火剤を使用して消火する。  
大規模火災には、泡消火剤を用いて空気を遮断する。  
延焼の恐れのないように、周囲の設備などに散水して周辺を冷却する。  
消火活動は可能な限り風上から行い、状況によっては呼吸保護具を着用する。

## 6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び予防措置： 作業者は適切な保護具（項目8参照）を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。  
漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する。  
風上から作業し、風下の人を退避させる。  
屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。
- 環境に対する注意事項： 河川・地下水等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。環境影響情報の詳細は項目12参照。  
物質が排水路・水路に流入することを防ぐ。
- 封じ込め・回収・中和： 危険でなければ漏れを止める。  
吸着剤（おがくず、土、砂、ウエス等）で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取り適切な廃棄容器に回収する。  
更に、大量の水で洗い流す。
- 二次災害の防止策： 付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。  
排水路、下水路、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

## 取扱い

- 技術的対策： 吸入・接触のおそれがあるときは適切な保護具を使用する（項目8参照）。  
火気厳禁
- 局所排気・全体換気： 取扱う場合は、局所排気装置、又は全体換気のある場所で取扱う。
- 安全取扱い注意事項： 火花を発生させない工具を使用すること。  
静電気放電に対する措置を講ずること。
- 接触回避： 混触禁止物質（酸化剤）  
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。  
 眼、皮膚、衣類に付けないこと。  
 蒸気、ミスト、スプレーを吸入してはならない。  
 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。  
 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。

保管

保管条件：

換気の良い場所で貯蔵すること。  
 保管場所には危険・有害物を貯蔵し、又は取扱うために必要な照明及び換気の設備を設ける。  
 静電気放電に対する措置を講ずること。  
 施錠して貯蔵すること。

混触禁止物質：

酸化剤、強酸等

安全な容器包装材料：

硝子、フッ素樹脂、ステンレス製で、破損、漏れの無い密閉可能な容器を使用する。塩ビ、アクリル樹脂は使用しない。

8. ばく露防止及び保護装置

管理濃度・許容濃度：

成分	管理濃度 (安衛法)	許容濃度			
		Cal/OSHA (PEL <sub>s</sub> )	NIOSH (REL <sub>s</sub> )	ACGIH 2020	日本産業衛生 学会2020
オリブ油 (Olive Oil)	なし	15mg/m <sup>3</sup> -空気 (植物油ミスト・ 総粉塵) 5mg/m <sup>3</sup> -空気 (植物油ミスト・ 吸入可能量)	10mg/m <sup>3</sup> -空気 (植物油ミスト・ 総粉塵) 5mg/m <sup>3</sup> -空気 (植物油ミスト・ 吸入可能量)	データなし	データなし

Cal/OSHA :Carifornia Division of OSHA(US Occupational Safety and Health Administration)

(PEL<sub>s</sub>):(Permissible Exposure Limits) Table AC-1 ,Oct.2,2019

NIOSH:US National Institute for Occupational Safety and Health

(REL<sub>s</sub>):(Recommended Exposure Limits) Oct.18,2019

設備対策：

蒸気を吸入しないように、局所排気装置の設置、設備の密閉化または全体換気を適正に行うことが望ましい。  
 取扱い場所の近くに洗顔及び身体洗浄のための設備を設ける。

保護具：

呼吸用保護具

保護マスク、換気の悪い場所では SCBA(自給式空気呼吸器)使用。

手の保護具

不浸透性保護手袋

眼、顔面の保護具

サイドシールド付保護メガネを着用する。飛沫が発生するおそれがある場合は有機溶剤対応型ゴーグルを着用する。

皮膚及び身体の保護具

長袖作業着、適切な顔面用保護具、保護靴等を着用する。

衛生対策：

取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など：

淡黄色または淡黄緑色の油状液体

臭い：

敗油性でないわずかなにおいがあり、味は緩和である。

融点/凝固点 (°C)：

5~10°Cで濁り始める。0°C以下で白い粒状の固まりができる。

初留点/沸点 (°C)：

データ無し

可燃性：	有
爆発下限及び上限：	データ無し
引火点：	330℃
自然発火点：	343℃
分解温度（℃）：	データ無し
pH：	データ無し
動粘度：	データ無し
溶解度：	水に不溶
n-オクタノール／水分配係数：	データ無し
蒸気圧：	データ無し
比重/密度：	0.910～0.916(25℃)
蒸気密度：	データ無し
溶媒に対する溶解度：	アルコールにわずかに溶ける。エーテル、クロロホルム、ジスルフィド炭素に溶ける。

## 1 0. 安定性及び反応性

反応性：	通常の手扱い条件下では反応しない。
化学的安定性：	通常の手扱い条件下では安定である。
危険有害反応可能性：	強酸化剤と激しく反応して発火する。
避けるべき条件：	熱、加熱、裸火
混触危険物質：	酸化剤、強酸化剤、強酸等
危険有害な分解生成物：	燃焼により一酸化炭素、二酸化炭素あるいはアクロレイン等有害ガスを生じる。

## 1 1. 有害性情報

## 急性毒性

急性毒性（経口）：	データ無し
急性毒性（経皮）：	データ無し
急性毒性（気体）：	区分に該当しない（分類対象外）。GHS 定義による気体ではない。
急性毒性（吸入：蒸気）：	区分に該当しない（分類対象外）。
急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）：	区分に該当しない（分類対象外）。

皮膚腐食性／刺激性	：	人 50mg/48hrs - Mild (RTECS: 1 6. 参考文献参照) ラビット 100mg/48hrs- Moderate (RTECS: 1 6. 参考文献参照) 人の皮膚を刺激する (HSDB: 1 6. 参考文献参照)。
-----------	---	---

## 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性：

眼を刺激する恐れがある (HSDB: 1 6. 参考文献参照)。

呼吸器感作性：	データ不足のため分類できない。
皮膚感作性：	データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性：	データ不足のため分類できない。
発がん性：	データ不足のため分類できない。
生殖毒性：	データ不足のため分類できない。
生殖毒性・授乳影響：	データ不足のため分類できない。

特定標的臓器毒性（単回ばく露）：  
データ不足のため分類できない。

特定標的臓器毒性（反復ばく露）：  
データ不足のため分類できない。

誤えん有害性：  
動粘性率が不明のため、分類できない。

## 1 2. 環境影響情報

水生環境有害性 短期（急性）：  
データ不足のため分類できない。

水生環境有害性 長期（慢性）：  
データ不足のため分類できない。

オゾン層への有害性：  
データ不足のため分類できない。

## 1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物：  
廃棄においては、関連法規及び地方自治体の基準に順うこと。都道

府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。

汚染容器及び包装： 容器は清浄してリサイクルするか、関連法規及び地方自治体の基準に順って適切な処分を行う。  
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

## 1.4. 輸送上の注意

国際規制 国連番号： 非該当  
品名（国連輸送名）： 非該当  
国連分類： 非該当  
容器等級： 非該当  
海洋汚染防止法： 施行令 別表第一 有害液体物質 Y類

国内規制 指針番号： 緊急時応急措置指針番号 非該当  
陸上規制情報： 消防法（指定可燃物 可燃性液体類）、道路法の規制に順う。  
海上規制情報： 船舶安全法、港則法、海洋汚染防止法の規制に順う。  
航空規制情報： 航空法の規程に順う。  
特別の安全対策： 消防法（指定可燃物 可燃性液体類）の規程に順う。  
危険物（含指定可燃物）は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し転落もしくは破損しないように積載すること。  
危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬すること。  
危険物の運搬中危険物が著しく漏れる等災害が発生する恐れがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずるとともに、最寄の消防機関その他の関係機関に通報すること。  
移送時にイエローカードの保持が必要。  
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。

## 1.5. 適用法令

化学物質審査規制法： 非該当  
化学物質排出把握管理促進法： 非該当  
労働安全衛生法： 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物ではない。  
消防法： 指定可燃物（可燃性液体類、指定数量 2m<sup>3</sup>）-1 気圧下での引火点 250℃以上。  
毒物及び劇物取締法： 非該当  
海洋汚染防止法： 施行令 別表第一 有害液体物質 Y類

## 1.6. その他の情報

参考文献  
GHS分類結果 化学物質管理 製品評価技術基盤機構（NITE）  
GHS混合物分類判定システム 経済産業省（METI）  
化学品の分類および表示に関する世界調和システム（GHS）改訂7版  
同上 附属書  
化学物質等法規制便覧2012、2020 化学工業日報社  
職場のあんぜんサイト 厚生労働省  
危険物災害等情報支援システム 総務省消防庁  
許容濃度等の勧告2020 日本産業衛生学会  
許容濃度等の勧告2020 ACGIH  
－GHS対応－化管法・安衛法・毒劇法におけるラベル表示・SDS  
提供制度 2020 経済産業省、厚生労働省  
危険物火災等情報支援システム No.5674、消防庁  
Toxic and Hazardous Substances, Limits for Air Contaminants,  
TABLE Z-1, 2019, OSHA (Occupational Safety and Health  
Administration, US Department of Labor)

RELS(Recommended Exposure Limits), Oct. 18, 2019,  
NIOSH(US National Institute for Occupational Safety and Health)  
HSDB(Hazardous Substances Data Bank/米国国立医学図書館)

**【注意】**

この安全データシートは、JIS 7252:2019、JIS 7253:2019 に準拠し、作成時における入手可能な製品情報、有害性情報に基づいて作成されているが、必ずしも十分ではない可能性がある。このため本製品の取扱いには十分に注意が必要である。この安全データシートの記載内容については、法令の改正並びに新しい知見に基づき改訂が必要となる場合がある。この製品安全データシートの内容は通常の見直しを必要とするものであるため、特別な取扱いをする場合には、用途や条件に適した安全対策等を実施することが必要である。